

プレスリリース  
2025年  
10月24日



関係各位  
全6枚

企画展開催のお知らせ

## 没後40年 鴨居玲展 見えないものを描く

2025年11月22日（土）－2026年2月1日（日）

### 孤独、不安、死の恐怖 人間が持つ暗い影と向き合い続けた画家・鴨居玲の回顧展

本展は、戦後の日本洋画壇において異色の存在感を放った画家・鴨居玲の大規模回顧展です。鴨居玲は1928年に石川県金沢市に生まれましたが、本籍は父親の生まれ故郷である長崎県北松浦郡田平町（現・平戸市田平町）でした。そのため当館では長崎ゆかりの作家として開館当初より顕彰を重ねてきました。当館での回顧展開催は、2006年以来19年振りとなります。

卓越したデッサン力、そして光と影が織りなす画面構成によって描かれたシリーズは、「自画像」「酔っぱらい」「女性像」「教会」など多岐に渡ります。特に1971年からのスペイン時代に描かれた老人や物乞い、そして酔っぱらいの作品群は、鴨居芸術の白眉といえるでしょう。

本展は、笠間日動美術館、ひろしま美術館、石川県立美術館、そして当館の作品を中心に、画業初期から絶筆に至るまでの油彩画やデッサンによって構成されます。孤独や不安、死の恐怖など、人間誰しもが持つ暗い影に正面から向き合った鴨居の作品は、混沌を極める現在だからこそ、これからを生きる我々に大きな示唆を与えてくれるでしょう。

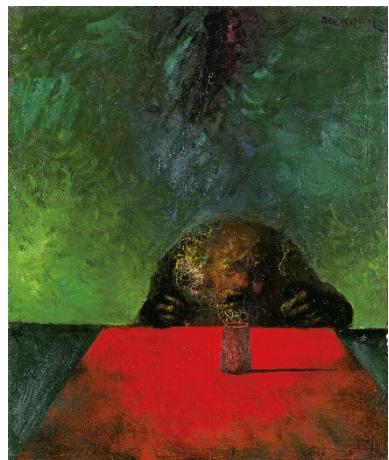


①鴨居玲《私の村の酔っぱらい》1973年  
ひろしま美術館蔵

## ■展示構成

### 1 モティーフの模索と選択

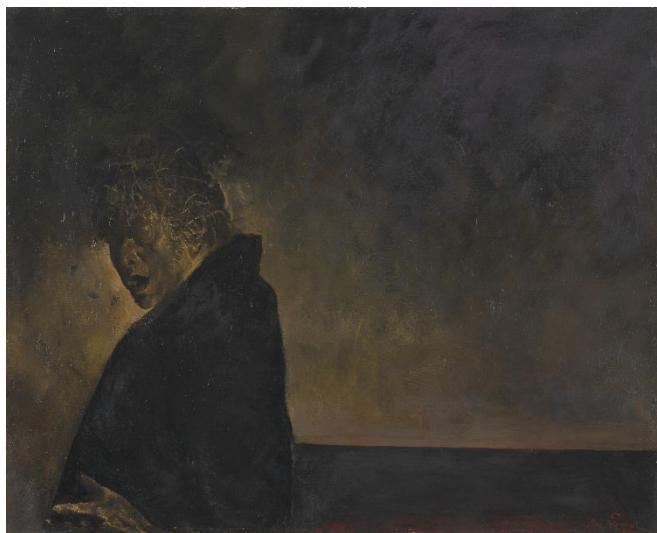
鴨居は1968年制作の《静止した刻》（東京国立近代美術館蔵）により、翌年の第12回安井賞を受賞しました。すでに40歳を超えた比較的遅い画壇での本格的デビューといえるでしょう。この作品を機に、賭け事をする男たちの群像が繰り返し描かれ、その劇的ともいえる緊張感が主題となっていました。今回展示している《サイコロ》は、その一連の作品といえるでしょう。この章では、鴨居初期の到達点であるこれらの群像表現に至るまでの軌跡を紹介します。



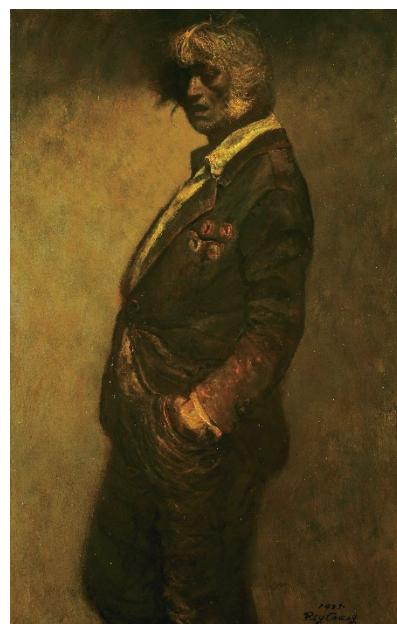
②鴨居玲《サイコロ》1969年頃  
長崎県美術館蔵

### 2 自画像

鴨居は「自画像の画家」と呼ばれるほど、画業初期より数多くの自画像を描いてきました。1969年に制作された《蛾》はその代表例です。そしてこの頃から目を暗く塗りつぶし、口をだらしなく開けた人物が描かれるようになります。どこか呆けたようなこの姿からは、意志のなさ、さらには生の放棄さえ感じられるでしょう。人物たちに死の影が宿るようになるのはこの頃からです。特に最晩年は、自嘲気味ともとらえることのできる自画像がいくつも描かれました。



③鴨居玲《蛾》1969年 長崎県美術館蔵



④鴨居玲《勲章》1985年  
笠間日動美術館蔵

### 3 私の村の酔っぱらい

鴨居は1971年にスペインのラ・マンチャ地方の町バルデペニヤスに居を構え、村人たちと生活を共にしながら、彼らをモティーフに制作のピークを迎えます。酔っ払いや踊り狂う人々、老人、さらには傷痍軍人に至るまで、貧しくも逞しく生きる村人たちに鴨居は魅了され、憑かれたように制作に没頭しました。人生の哀しみと刹那的な生の喜びを感じさせるこれらの作品群は、鴨居芸術の頂点といえるでしょう。



⑤鴨居玲《私の村の酔っぱらい(A)》1973年  
笠間日動美術館蔵

### 4 女性像

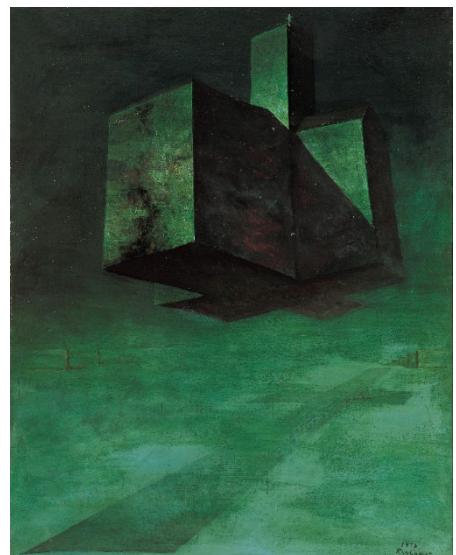
鴨居はヨーロッパからの帰国後、神戸にアトリエを構えます。そこから亡くなるまでの8年間は鴨居にとって苦悩の日々でした。描くテーマを求めてたどり着いたのが女性像でした。それまでは人間の深い内面を抉り出すような絵画世界を展開していましたが、これらの女性像では人間味のないどこか神々しい姿で表現されています。新たな境地を開拓したように見えましたが、本人は「裸婦が描けない」と周囲にもらすほど苦悶し続けました。



⑥鴨居玲《白い人》1980年  
ひろしま美術館蔵

### 5 教会

鴨居が手がけた人間以外の唯一の主題が「教会」でした。特に、カトリック教国のスペインやフランスでの滞在中は繰り返し描かれました。教会を描いた理由として、「何故自分が無宗教であるか、という問いかけ、それが最初です」と語っています。鴨居の描く教会には入口や窓がなく閉ざされており、まるで外の者を拒んでいるかのようです。そしてだんだんと宙に浮き、さらに手の届かない存在へとなっていました。鴨居が敬愛した下着デザイナーの姉・羊子は、若い頃に洗礼を受け熱心な信者でした。姉とは対照的に、どこにもすがることのできない鴨居自身の孤独が「教会」シリーズには現れ出ているといえるでしょう。



⑦鴨居玲《教会》1978年  
石川県立美術館蔵

## 6 弥縫録

中国歴史小説で知られる陳舜臣（1924－2015）の連載エッセイ『弥縫録 中国名言集』（『週刊読売』1978年4月16日号～1980年5月25号）のために、鴨居は挿絵を手がけています。コミカルに描かれたこれらの挿絵からは、ユーモアあふれる鴨居の別の側面を見出すことができます。



⑧『「弥縫録 中国名言集」掣肘』挿絵  
1978-80年 個人蔵



⑨『「弥縫録 中国名言集」青雲の志』挿絵  
1978-80年 個人蔵



⑩『「弥縫録 中国名言集」細君』挿絵  
1978-80年 個人蔵

※作品は全て鴨居玲作

### ■関連企画

#### レクチャー

##### 「鴨居玲の作品を語る」

日 時 | 2026年1月11日（日）14:00－15:00（開場13:30）  
講 師 | 森園敦（長崎県美術館学芸員）  
会 場 | ホール  
定 員 | 先着80名  
料 金 | 無料

##### 学芸員によるギャラリートーク

日 時 | 2025年11月29日（土）、12月27日（土）、2026年1月24日（土）各日14:00－15:00  
会 場 | 企画展示室  
定 員 | 各回先着20名  
料 金 | 無料（要本展覧観券）

## ワークショップ

### 「鴨居玲と出会う／油絵に触れる」

油絵にはじめて触れる方向けのプログラムです。油絵の道具や使い方を知り、鴨居玲の作品を鑑賞した後に、講師の指導のもと「自分の顔またはその一部」を描くことに挑戦します。



日 時 | ①12月20日（土）10:00-15:00 ②12月21日（日）10:00-15:00

講 師 | 辻本健輝（画家・STUDIO HIZEN LLC 代表）

会 場 | アトリエ、企画展示室

対 象 | 中学生以上

定 員 | 各回10名 ※応募者多数の場合は抽選

参 加 費 | 1,000円（大学生以上は要本展観覧券）

申込方法 | 下記URLまたは右の二次元コードからお申込みください。

<https://forms.office.com/r/mJkE6xxj8H>

申込締切 | 11月30日（日）

12月4日（木）までにメールで抽選結果をお送りします。



お申し込みはこちら



## ■カフェ期間限定販売

長崎県美術館カフェでは、鴨居玲が滞在したスペインにちなみ、スペイン産の赤ワインを使用したホットワインを本展期間限定でご提供します。ホットワインにオレンジ・レーズン・アーモンドスライス・シナモンをトッピングした、寒い季節にぴったりの体が温まる一杯です。本展観覧券がついたお得なセット券も販売。詳しくは長崎県美術館ウェブサイトをご覧ください。



提供期間 | 11月22日（土）～2026年2月1日（日）

## | 招 | 待 | 券 |

本展をご紹介いただける場合に限り、読者・視聴者プレゼント用招待券（最大10組20名様まで）をご用意しています。ご利用を希望される場合は、当館広報までお問い合わせください。

### 広報用画像のご提供について

本リリースに掲載している画像①～⑩を広報用にご用意しています。ご利用を希望される場合は、媒体名、発行日、ご担当者名、連絡先、ご希望の画像番号を記載の上、長崎県美術館広報宛にFAXまたはメールにてご連絡ください。

### 【画像使用の注意事項】

※画像の使用は、本展をご紹介していただける場合に限ります。

※掲載にあたっては事前校正が必要です。ご依頼はお早めにお願いいたします。

※画像のキャプション及びクレジットは必ずご掲載ください。

※画像のトリミングや文字載せは不可。

※二次使用禁止。使用後は速やかに画像データを破棄ください。

※掲載終了後は、掲載出版物を当館広報宛にお送りください。

---

## ■巡回情報

---

美術館「えき」KYOTO 2025年5月30日(金)～2025年7月6日(日)  
ひろしま美術館 2025年9月13日(土)～11月3日(月・祝)  
石川県立美術館 2026年2月11日(水・祝)～2026年3月15日(日)

---

## ■開催概要

---

【展覧会名】没後40年 鴨居玲展 見えないものを描く

【会期】2025年11月22日(土)～2026年2月1日(日)

【会場】企画展示室

【開館時間】10：00～20：00(1月2日・3日は18：00まで) ※最終入場は閉館の30分前まで

【休館日】11月25日(火)、12月8日(月)、22日(月)、29日(月)～2026年1月1日(元日)、  
1月13日(火)、26日(月)

【観覧料】一般1,300(1,100)円、大学生・70歳以上1,100(900)円、高校生以下無料

※( )内は前売りおよび15名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、障害福祉サービス受給者証、  
地域相談支援受給者証、特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)医療受給者証、  
先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証の提示者  
および介護者1名は5割減額

※前売券の販売は、11月21日(金)まで

※会期中本展覧券でコレクション展にも入場できます。

## ■前売券

販売期間：10月31日(金)～11月21日(金)

販売所：チケットぴあ(Pコード687-355)、ローソンチケット(Lコード84290)、  
セブンチケット(セブン-イレブン)、CNプレイガイド(ファミリーマート)、  
イープラス(eplus.jp)、好文堂書店、紀伊國屋書店長崎店、メトロ書店長崎本店、  
くさの書店チトセピア店、長崎県美術館

主催 | 長崎県美術館

共催 | NIB長崎国際テレビ

後援 | 長崎県、長崎市、長崎県教育委員会、長崎市教育委員会、長崎新聞社、西日本新聞社、  
毎日新聞社、読売新聞西部本社、長崎ケーブルメディア、エフエム長崎

企画協力 | 公益財団法人日動美術財団、日動画廊

---

長崎県美術館 (公益財団法人長崎ミュージアム振興財団) 広報担当：古賀、山田／学芸担当：森園  
〒850-0862 長崎市出島町2番1号 Tel: 095-833-2110 Fax: 095-833-2115  
e-mail: info-k@nagasaki-museum.jp https://www.nagasaki-museum.jp